

# この本を薦めます

学会誌編集委員長 佐々木 葉

第16回



## 島谷 幸宏

フェロー会員 九州大学 教授

土木の日実行委員会や100周年実行委員会など、土木学会の社会的活動に精力的に関わってこられた九州大学の島谷幸宏先生に、折にふれて読み返す本などをご紹介いただきました。

## 河

川技術者として日本全国、海外の川を飛び回る島谷先生。

インタビュアーは東日本大震災で被災した地域の河川堤防デザインの熱い議論の余韻さめやらぬ場にて。

まず1冊目は、関正和『大地の川』。

関さんと島谷さんは、建設省時代、7歳ちがいの先輩と部下という関係にあった。河川に関わる人びと、さらにひろく土木技術者にとって必読の書といってもよい本である。ラジオで話したことをまとめたこともあり、文章

は平易で読みやすい。しかし、奥は深い。人間は自然に招かれた客である。川にはいろいろな神様がいます。水の神様、石の神様、植物の神様などなど。こういった言葉を関さんの口から直接聞いていた島谷先生にとって、この本は折に触れて読み返す、美しい風景のための川づくりへの理念が凝縮した原点のような一冊である。

次いで、ドラッカーのマネジメン

論からたとえば『エッセンシャル版』。土木は大きなプロジェクト。個人個人を活かしながらある時間の中で組織をマネジメントし、プロジェクトを進めなければならぬ。しかも楽しみながら。土木を仕事とする学生もそのように導いて

いかなければならない。その方法を考えていた時に『もしドラ』と呼ばれる本が話題となった。読んでみるとなかなか面白い。そこからドラッカーに興味をもって何冊か読んでいった。自己実現的マネジメント、プロフェッショナルの条件、自分をどう鍛えていくか。古い本ではあるが、いまだに新しい。社会とともにある土木技術者としては、顧客はだれか、どうメッセージを伝えるか等、おおいに参考になるのでは、と島谷先生はおっしゃる。

最後は、山田健『東京・自然農園物語』。著者の山田氏はコピーライターとしてサントリーに入社したが、その後水源地の森を守る・つくる仕事を担当することとなった。その顛末を綴った『水をもとめて森へ』は非常に

面白い本であり、島谷先生も登場する。そうした接点のある山田氏から直接薦められたのが、東京都心の広大な土地で自然農業を始めるという完全なフィクションであるこの小説である。ついつい笑ってしまうエピソードや登場人物も魅力的であるが、生態系の営みをよく知ることができ、それはつまらない技術書よりはるかに勝る。ハウツーとしてのエコでなく、その意味や本質を感じ取ることができる本として選んでいただいた。

どんな場でも信念をまげず、歯に衣着せない島谷先生のお薦めは、いささか普通という印象であった。しかしそれは「やんちゃ」の背後に横たわる常識の現れなのかしら、とも思われた。



SHIMATANI Yukihiro

1955年 山口県生まれ。建設省土木研究所、国土交通省九州地方整備局の武雄河川事務所長を経て九州大学教授。住民参加の川づくり、多自然川づくり、自然再生、流域全体での治水などがテーマ。

**大地の川**  
関正和：草思社

**マネジメント**  
—基本と原則  
P.F.ドラッカー：ダイヤモンド社

**東京・自然農園物語**  
山田健：草思社